

平成29年度 東京都立三鷹中等教育学校 学校経営報告

校長 藤野 泰郎

1 本年度の総括

平成29年度は、「6年間の中高一貫教育を通して、他者を思いやることのできる豊かな心を持ち、『胸は祖国に置き、眼は世界に注ぐ』の精神の下、国際社会で日本の良さを語り、人間性豊かな社会を構築する『思いやり・人間愛（ヒューマニティ）を持った社会的リーダー』の育成を図る」ことを引き続き基本理念として掲げるなか、3回目の卒業生が巣立ち、卒業後の進路も一定の成果を上げることができた。既存の取組について改善事項も具体的になってきたことから、開設8年目以降を充実期としてとらえ、各取組の改善を中心に経営計画を策定し実践した。

東京都教育委員会の施策・事業を最大限活用し予算措置や物的支援を受け、目的を明確にした教育活動が実践されるよう、組織的に取り組むことができた。一方、ICT機器の活用などによる働き方改革等の職場改善も意識的に取り組んだ。次年度以降も今年度の経営報告をもとに学校が常に発展できるよう、教職員一人一人が力を発揮し、一枚岩になって改善に取り組むことが求められる。

2 本年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

- ①6年間を見通した教育課程の編成と特色のある教育を推進する（学習指導）
→新学習指導要領及び高大接続改革に伴う大学入学選抜に関する対応の充実を図った。
- ②将来の在り方・生き方を見据えた、系統的・継続的キャリア教育を行う（進路指導）
→各学年に示した目標によるキャリア教育を展開した。
→全国模試等を活用した個別の指導計画に基づく受験指導を実施した。
- ③規範意識を高め、発達段階に応じた生活指導を充実させ、心身の健康維持を図る（生活指導）
→外部人材を活用した学年行事、前・後期別生活指導の徹底により、規範意識・心身の健康維持を図った。
- ④地域や日本を理解する教育活動を充実させる（特別活動・地域交流・健康づくり）
→校外学習・学年行事・教科授業により実施した。
- ⑤国際理解教育を推進し、グローバルな視野の育成を図る（国際理解教育・広報活動）
→海外修学旅行をはじめ、海外生徒学校訪問の積極的受け入れや年間を通じた教育活動全般における取組により充実することができた。
- ⑥ICT機器を活用した幅広い教育活動を展開する（学校経営・授業改善）
→各教科において教材開発を進め、学級・ホームルーム活動での積極的活用を行った。
- ⑦中高一貫教育校としての指導体制を確立する（学校経営）
→学級・ホームルーム担当及び教科指導担当において組織的取組を推進した。
- ⑧持続可能な社会づくりに向けた教育活動を推進する（学校経営）
→ESDの取組として学年行事、主権者教育を充実させることができた。

3 指導の重点目標と具体的取組の成果

(1) 29年度の重点目標

○学習指導

- ①前期課程の月曜補習は15講座以上開講し、年間20週以上実施する。
- ②後期課程の放課後補習は、年間20週以上実施する。
- ③前期課程及び第5学年では、夏季休業日中に1週間の補習週間（20時間）を実施する。また、第6学年を中心とした補習講座を各長期休業日中に合計100講座以上実施する。さらに、第4学年では夏季休業日中、第5学年では冬季休業日中に2泊3日の勉強合宿を実施する。
- ④校内研修会を年間2回以上、小中高合同研修会を年間1回、授業研究を年間12回以上実施する。

⑤年間18回以上の授業公開と年間1回の道徳授業地区公開講座を実施する。

○生活指導・生徒相談活動

①部活動加入率を90.0%以上とする。

②セーフティ教室を年間2回、安全指導を年間11回（防災・避難訓練4回を含む）実施する。

③生徒相談連絡会を年間4回実施する。

④学校事故発生件数0を目指す。

○進路指導

①センター試験実受験者を99.0%以上とする。

②国公立大学合格者を、現役40名以上、卒業生を合わせて45名以上とする。

③難関私立大学（早・慶・上・理）合格者を現役70名以上、卒業生を合わせて80名以上とする。

④GMARCH（学習院・明治・青山・立教・中央・法政）合格者を現役110名以上、卒業生と合わせて140名以上とする。

⑤第6学年向けのケース会議を年3回実施するとともに、後期課程における校内実力試験を実施する。

⑥ファースト、セカンド、サードステージの発表会を、ICT等を活用して各1回開催するとともに、全員の論文を冊子上で発表する。

⑦第3・4学年において、学年による大学訪問を各1回実施するとともに、夏季休業期間を活用したオープン・キャンパス訪問を行う。

⑧のべ60社以上の事業所と連携した職場見学・職場体験をそれぞれ年間各1回学年単位で実施し、第2学年においては職場体験と自分が目指すリーダーについての発表会を開催する。

○募集対策

①学校見学会・学校説明会への参加者をのべ4,800名、授業公開への参加者を1,700名以上とする。

②授業公開の土曜日における説明会を年間10回実施する。

③一般枠募集の応募倍率を6.5倍以上とする。

④適性検査の解説会を年2回開催する。

○グローバル人材の育成

①海外生徒を招いての国際交流を年3回以上実施する。

②校内留学を冬季・春季休業日に各3日間実施し、参加生徒60名以上確保する。

③海外ボランティア研修をアメリカで行い、参加生徒を40名以上確保する。

④海外修学旅行を実施し、海外での学校交流を1日実施する。

⑤「東京グローバル10」として英語力の向上を図り、前期課程修了時点における英検準2級以上の取得率を65.0%以上とする。

⑥GTEC3技能試験にける取得目標平均点を第4学年520点（Basic）、第5学年550点（Advanced）、第6学年610点（Advanced）と設定するとともに、第4・5学年全員にSpeakingを受検させ、50%の生徒がGrade4に到達させる。

⑦海外姉妹校2校と交流（インターネットを活用した交流等）の充実を図る。

⑧インバウンドの人たちに、日本の伝統・文化や歴史を英語で説明しながら東京を散策する東京グローバル遠足を実施する（第6学年 学校行事1回）。

○その他（特色ある教育活動、指定校・推進校の取組）

基本計画に則り、特色化を図るとともに、都教育委員会の事業の成果を測り検証する。

①毎日の朝読書実施と併せ、生徒一人当たりの年間読書数を最低25冊以上とし、図書館における図書貸出冊数14,000冊以上とする。

②ICT機器を活用した授業公開を2回以上、ICTパイロット校成果検証報告会を1回実施する。

③主権者教育充実のため、模擬選挙（第3学年「総合的な学習の時間」）、模擬裁判員体験や模擬議会等の特別授業（第4学年「文化科学Ⅱ」）を外部機関と連携して1回以上行う。

④言語能力の更なる向上を図るため、書評合戦（第1学年「文化科学Ⅰ」及び第4学年「国語総合」）を実施し、上部大会に出場する。

⑤日本の伝統・文化継承の一環として、江戸時代の数学「算額」や統計の基本を学ぶ。（第2学年「自然科学Ⅰ」）

- ⑥キャリア教育充実のため、第1・2学年（ファーストステージ）で職業観・勤労観の育成、第3・4学年（セカンドステージ）で学問の研究、第5・6学年（サードステージ）で進路の決定を図る論文の作成及び発表会を実施する。（全学年「人生設計学」）
- ⑦E S D推進のため、「玉川上水」駅から井の頭公園までの玉川上水の遊歩道を教科横断的な課題（社会・理科・保健体育、郷土の歴史や環境問題、体力向上等）を考えながら歩く強歩大会を実施する。完歩した際にスポンサー（保護者）からの報酬を得、生徒が選択した団体（NPO、企業、地方自治体等）に寄付するスポンサード・ウォークを実施する。（第3学年「学校行事」）

(2) 具体的取組の成果と課題

分野	項目	年間目標	成果と課題	評価
学習指導	前期課程の月曜補習	15講座以上開講	26講座開講	A
		年間20週以上実施	年間21週実施	B
	後期課程の放課後補習	年間20週以上実施	年間21週実施	B
	前期課程及び第5学年の夏季休業日中講習	1週間の補習週間（20時間）実施	20時間の設定及び実施	B
	第6学年を中心とした補習講座	各長期休業日中に合計100講座以上実施	第6学年対象講座71講座実施	B
	第4・5学年の勉強合宿実施	2泊3日	2学年実施	A
	校内研修会	2回	2回実施	B
	小中高合同研修会	1回	1回実施	B
	授業研究	年間12回以上	21回	A
	授業公開	年間18回以上	18回実施	B
道徳授業地区公開講座	年間1回	1回実施	B	
生徒相談活動	部活動加入率	90.0%以上	88.5%	B
	セーフティ教室	1回	2回実施	B
	安全指導（防災・避難訓練4回を含む）	年間11回	11回実施	C
	生徒相談連絡会	年間4回実施	年4回実施	B
	学校事故発生件数	0件	0件	B
進路指導	センター試験実受験者	99.0%以上	99.3%	A
	難関国立大合格者数	現役6名	4名	C
		卒業生と合わせて7名	7名	B
	国立大合格者数	卒業生を合わせて45名以上	53名（現役44名、既卒生9名）	A
	難関私立大合格者（早・慶・上・理）	現役70名以上、	64名	C
		卒業生を合わせて80名以上	78名	C
	GMARCH合格者（学習院・明治・青山・立教・中央・法政）	現役110名以上	107名	B
	第6学年向けのケース会議	年3回実施	3回実施	A
	ステージ論文の発表会	ICTを活用して各1回実施	3回実施	B
		全員の論文を冊子上で発表	作成済み	B
第3・4学年による大学訪問	1回実施	各1回実施	A	
事業所と連携した職場見学・職場体験	のべ60社以上の事業所と連携	のべ92社の事業所と連携	A	
	2学年での発表会実施	実施	A	
募集対策	学校見学会・学校説明会への参加者	4,800名	5,544名。新たに部活動見学会も2回実施	A
	授業公開参加者	1,700名	2,743名	A
	応募倍率	6.5倍以上	5.98倍	C
	適性検査の解説会	年2回開催	学校見学会・説明会にて3回実施	B
グローバル人材の育成	海外生徒を招いての国際交流	年3回以上実施	3回実施	B
	校内留学	冬季・春季休業日に各3日間実施	各3日間実施	B
		参加生徒60名以上	参加生徒67名	A
	海外研修ボランティア研修	アメリカ（ワシントン州シアトル）で実施	事前学習が充実	A
		参加生徒40名以上	参加生徒45名	A
	海外修学旅行	実施	10月実施（台湾の歴史・文化及び交流校の事前学習が不十分）	B
		海外での学校交流を1日実施	セレモニー、文化交流とも充実	A
	英検準2級以上の取得率	前期課程修了時点65.0%以上	79.9%	A
	GTEC3技能試験にける取得目標平均点	第4学年520点（Basic）	497.5点	学力不足が懸念される。
		第5学年550点（Advanced）	536.4点	
	第6学年610点（Advanced）	604.2点		
Speakingの受検（第4・5学年）	Grade4 50%	56.7%	B	
海外姉妹校2校とのインターネットを活用した交流	実施	2回実施。環境不十分	C	
東京グローバル遠足（第6学年）	実施	6月実施。英語でのコミュニケーションが図れた。	B	
その他	生徒一人当たりの年間読書数	25冊以上	約42%の生徒が25冊以上	C
	図書館における貸出図書冊数	14,000冊以上	約12,800冊（タブレットPC活用の影響あり）	B
	ICT機器を活用した授業公開	2回以上	2回以上実施	B
	ICTパイロット校事業成果検証報告会	1回実施	1回実施。他校への周知が遅れ参加者数が不十分であった。	C
	主権者教育充実のため模擬選挙	1回実施（3学年）	3月までに実施。税理士会・市選管・弁護士会・財務省と連携	A
	模擬裁判員体験や模擬議会等の特別授業	1回実施（4学年）	1回実施	A
	書評合戦	上位大会進出（4学年）	都本大会2名出場	B
	江戸時代の数学「算額」や統計の基本	コンクール入賞（2学年）	「算額をつくろうコンクール」金賞受賞（第2学年）	A
スポンサード・ウォーク	1回実施	1回実施	A	